

第1学年 道徳学習指導案

日 時 令和3年11月5日(金)

場 所 1年 組教室

授業者

1 主題名 いのちを考える(3)

2 資料名 決断! 骨髄バンク移植第一号

3 主題構成表

■内容項目

D-(19) 生命の尊さ

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

■価値の分析

- ・生命あるものは互いに支え合って生きている。支え合う中で生命はつながり、関わり合う連続性をもつ。このことを認識することを通して、生命はかけがえのないものであり軽々しく扱ってはならないという態度が生まれる。
- ・中学生のこの時期は、互いに支え合い、関わり合うことの必要性は理解している。その一方で、関わりへの弱さから、より深く関わり支え合うことの良さが経験できていないことがある。
- ・1・2時間目では、自分自身の生命の大切さについて考えた。本時では、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされているという意識をもたせ、自分の生命と田の生命が関わり合う連続性を持つからこそ、自分の生命も他の生命も尊重する態度を育てたい。

■内容項目から見た生徒の実態

- ・生命は尊く大切であることを理解している生徒は多い。
- ・生命あるものが互いに支え合って生き、生かされていることについて考えが及ばず、安易に人を傷つける発言をしたり、自己を卑下する発言をしたりする生徒もいる。
- ・生命を連続性のあるものとして考えられる生徒が少なく、自分のものだけと考える生徒もいる。

■要因

- ・小学校の道徳や生活経験を通して、生命の大切さについて学習してきた。
- ・支え合う、関わり合うことの必要性は理解しているが、仲間との関わりへの弱さから、生命が自分だけの単独的なものと考えてしまっている。
- ・身近な生物や人の死に向き合ったことがある生徒が少なく、生命の有限性や連続性を経験として実感することができていない。

■資料の分析

- ・主人公の田中さんは、以前登録した骨髄バンクから、血液の適合を告げられる。骨髄の提供を迷いながらも決断し、自分の生命が骨髄提供を通してつながっていくことを実感するという内容である。
- ・田中さんは、手術が近づくにつれて恐怖と使命感の間で心が揺れるも、恐怖を乗り越え骨髄の提供を決断する。自己の生命と同じように、他の生命を大切にしたいと思う田中さんの気持ちに共感させたい。
- ・骨髄の提供を迷う中で、自分の生命は他の生命につながっていることに気付いた田中さんの姿から、自己の生命は単独的なものではなく、他の生命へとつながっていく連続性のある尊いものであることを実感させ、自己の生命を大切にするとともに、他の生命を大切にすることを育みたい。

■ねらい

悩みながらも自分の骨髄を提供した田中さんの姿から、人が互いに支え合って生きていくことの大切さを理解し、自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。

■展開の構想

- ・始めは提供する意欲にあふれていたが、次第に家族の反対や手術のリスクから不安になる田中さんの心情について考え、他の生命を救うことができるが、自分にリスクがある場合について考える。
- ・それでも提供することを決断した田中さんの話を聴くことで、生命の大切さや生命のつながりについて気付くことができる。
- ・「いのち」を大切にすることについて改めて考え、自他の生命の大切さに気付くことができるようにする。

■基本発問(◎中心発問)

- 田中さんの心の中は「提供する」「断る」という2つの気持ちでどのようになっているだろうか。
- ◎田中さんはどうして「提供する」と決心することができたのだろうか。田中さんご本人の話を聴いてみましょう。
- 今日の授業を通して「いのち」についてどう考えたか。

4 道徳の時間(本時)と他の教育活動との関連

<場の内容・ねらい>

■学級活動

「人権集会に向けて」

- ・人権宣言や人権の五観点を通して自分たちの生活を振り返り、よりよい仲間との関わり方について考える。

■道徳の時間

「あなたはひかり」

内容項目 D- (19)

- ・自分自身の「いのち」について多面的・多角的に考え、「いのち」の大切さを自覚し、前向き生きようとする態度を育てる。

「いのちって何だろう」

内容項目 D- (19)

- ・「いのち」の尊さを守るためにはどのように考えていくかについて理解を深め、大切にしようとする心情を育てる。

■道徳の時間

「決断！骨髄バンク提供第一号」

内容項目 D- (19)

- ・悩みながらも自分の骨髄を提供した田中さんの姿から、人が互いに支え合って生きていくことの大切さを理解し、自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。

■学校行事

「人権集会」

- ・北辰の誇りや仲間との関わり方について考える活動を通して、人権の五観点や互いのことを大切に支えあいながら、行動ができるようにする。

■日常生活

<学習>

- ・先を見通し、意欲的に学習したり、仲間と共に協力して一つの課題に向かったりする中で、互いに協力し合い、支え合いながら学習に取り組むことができるようにする。

<日常生活>

- ・人権を大切にする姿を価値付け、互いに支え合い、生活しようとする態度を育てる。
- ・学級の植物の水やりなどを行うことを通して、学校の緑化に努め、生命を大切にしようとする心情をもつことができるようにする。

<給食>

- ・生命をいただくことへの感謝の気持ちをもって食事をする。

<生活の記録>

- ・生活の記録の記述の中から、仲間との支え合い、生命の尊さについて触れているものを紹介し、価値を共有できるようにする。

<生徒の意識>

- ・北中学校に入学し、仲間と関わり合いながら様々な活動に取り組んでくれた。
- ・仲間と「関わり合う」中で大切なことはなんだろう。

- ・私は大切な存在だからこそ、かけがえのない「いのち」や自分の生活を大切に生きていきたい。
- ・色々なことに挑戦したり、周りの人に感謝の気持ちをもって生活したりすることが、「いのち」を大切にしていけることにつながるんだ。

- ・自分の「いのち」が誰かにつながっていったり、誰かの「いのち」が自分にもつながったりすることもあるんだ。
- ・自分の「いのち」だけでなく、他の人の「いのち」も「大事ないのち」であり、自分の「いのち」と同じように大切にしていきたい。

- ・人権の五観点を大切にして自分も仲間も大切にし、互いに支え合いながら生活をしていきたい。
- ・「北辰の集い」に向けてよりよい北中学校を目指すために、人権の五観点を意識し、互いを尊重し合うことを大切にしていける。

<指導・援助>

- ・仲間の思いについて考えることを通して、互いのことを大切にし、支え合うことについて考えさせる。

- ・自分が今、存在することの不思議さや、自分自身の「いのち」のかけがえのなさについて気づかせる。
- ・つらいこともあるが、それを乗り越えていく力があるからこそ「いのち」は尊いことに気付かせる。

- ・田中さんが、悩みや葛藤を経て、なぜ自分の骨髄を提供することを決断したか、その背景にある思いを考えるようにする。
- ・他の生徒の考えと自分の考えと比較することで、互いに支え合い生きること、生かされていることについて考えを広げられるようにする。

- ・人権の五観点を大切にしながら、互いのことを考え合い、支え合おうとする姿を価値付ける。
- ・支え合い、関わりあいを大切にし、行動に表せる集団を目指す。

【北中学校 人権の五観点】

行為

言葉

礼節

責任

呼応

5 本時の展開

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	<p>1. 「骨髄バンク」について知っているかを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白血病という病気は血液のがんであること。 ・白血病は投薬治療と骨髄移植という方法で治癒すること。 ・骨髄移植をすることで、再発の可能性が低くなること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「骨髄バンク」について全く知らない生徒がいると考えられるので、教師が補助的に説明を入れ、白血病や骨髄バンクについて簡潔に理解できるようにする。
展開前段	<p>2. 資料「決断！骨髄バンク移植第一号」を読み、話し合う。</p> <p>○田中さんの心の中は「提供する」「断る」という2つの気持ちでどのようになっているだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「提供する」気持ちが大いと思う。自分が骨髄の提供をすることで人の「いのち」を救えると思うから。 ・「提供する」と「断る」で悩んでいると思う。「いのち」を救いたいけれど、自分に何かあったらどうしようという思いがあるから。 ・「断る」気持ちが大いと思う。太い針を10本刺すのはすごく痛そうだし、よく知らない相手のために自分の「いのち」を危険にさらすことはできないと思ったから。 <p>◎田中さんはどうして「提供する」と決心することができたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怖いという思いはあっただろうけれど、自分が逃げてしまったら救えるはずの「いのち」を潰すことになると思ったから。 ・自分の「いのち」が大切なように、他の人の「いのち」も大切な「いのち」と考えて提供を決意したと思う。 ・橋本さんの「いのち」も息子さんの「いのち」と同じ「いのち」だと考えて、橋本さんの「いのち」を大切に思ったから提供することを決意したと思う。 <p>(ゲストティーチャーの話聴く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中さんが提供しなかったら、橋本さんは死んでいたかもしれない。橋本さんの命を大切にしたいからだと思う。 ・自分の「いのち」と同じように、橋本さんの「いのち」も大切に思う橋本さんの思いが素敵だと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・田中さんの揺れる心の中を想像しながら資料で「すごい」や「どうして」と感じたところに線を引きながら聴く。 ・自分が田中さんの立場だったらどうするか、自分の立ち位置を両端に「提供する」「断る」と記した数直線上でマーキングする。(タブレット使用) ・「提供する」気持ちが大い生徒と「断る」気持ちが大い生徒、どちらの気持ちか悩んでいる生徒など、いろいろな考えを引き出し、多様な考えがあることに気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価の視点】 骨髄提供を決心したときの田中さんの気持ちについて、仲間との交流や田中さんの話を聴くことを通して、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・田中さんの話から、どのような心の葛藤があったのか、どうして「提供する」と決心することができたのかを考えさせる。 ・生徒の意見を聞いた後、実際に田中さんから、自分の骨髄を提供することを決断するに至った理由などについて語っていただく。 ・田中さんのお話を聞いた感想を交流し、田中さんが自分の生命と同じように橋本さんの生命も大切に思っていた思いに共感させる。 ・「橋本さんの新聞記事を読んだとき、田中さんはどう思ったか」と問いかけることで、いのちの連続性について理解を深められるようにする。
展開後段	<p>3. 本時の学習を振り返る。</p> <p>○今日の授業を通して「いのち」についてどう考えたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の「いのち」だけでなく、他の人の「いのち」も「大事ないのち」であり、自分の「いのち」と同じように大切にしていきたいと思った。 ・自分の「いのち」が誰かの「いのち」を救うこともあるのだと思った。自分の「いのち」が誰かにつながっていったり、誰かの「いのち」が自分にもつながったりするのだと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時考えたことを踏まえて、自分の生命が他の人の生命につながっていること(連続性)や、生命があるものは互いに支え合って生きていることを自覚し、自分や他の生命を大切にすることはどういうことかを考えることができる。
終末	<p>4. Tさんから北中学校の生徒に向けた「いのち」の大切さについて話を聴く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北中学校の卒業生としてこそ、今の北中学校の生徒に伝えたいことを話していただく。